



平成20年10月 マンスリー レポート

集計企業数 60 社

売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	41,032,953 万円	100.0%	105.2%(104.1%)	38,501,548 万円	100.7%(99.7%)
食 料 品	33,890,552 万円	82.6%(83.5%)	106.0%(104.4%)	31,813,939 万円	101.9%(100.8%)
農 産	5,145,355 万円	12.5%(12.5%)	106.9%(103.4%)	4,849,496 万円	102.9%(99.8%)
水 産	3,451,975 万円	8.4%(8.4%)	101.5%(100.8%)	3,274,891 万円	97.7%(97.4%)
畜 産	3,970,962 万円	9.7%(9.6%)	108.9%(109.2%)	3,747,500 万円	104.5%(105.2%)
惣 菜	3,322,028 万円	8.1%(8.3%)	105.5%(104.6%)	3,090,174 万円	100.7%(100.3%)
日配食品	7,680,956 万円	18.7%(19.2%)	104.5%(103.6%)	7,173,373 万円	100.4%(99.9%)
加工食品	10,319,277 万円	25.1%(25.4%)	107.3%(105.1%)	9,678,505 万円	103.5%(101.6%)
生活関連	3,051,077 万円	7.4%(7.3%)	99.9%(100.0%)	2,905,226 万円	96.9%(97.3%)
衣 料 品	1,769,224 万円	4.3%(3.6%)	99.9%(102.4%)	1,654,932 万円	94.7%(96.9%)
そ の 他	2,322,101 万円	5.7%(5.7%)	106.3%(106.0%)	2,127,452 万円	93.7%(89.5%)

数 値

全店総売上高	41,032,953 万円	店 舗 数	3,726 店舗
総売場面積	6,401,938.4 m ²	総従業員数	183,612 人

店舗平均月商	11,012.6 万円	平均客単価 (前年同月比)	1,892.1 円(101.1%)
月間m ² 売上(前月)	6.4 万円(6.3 万円)	平均店舗面積	1,718.2 m ²
月間坪売上(前月)	21.2 万円(20.7 万円)	パート比率(前月)	75.5%(76.3%)

注) 総従業員数...パート・アルバイト数は、8時間換算しています

全体概況

- ・ 昨年より土日が1回ずつ少ない先月に対し、10月の曜日廻りは昨年と同じ。今年も気温高めで推移したが天候に恵まれた地域多く、既存店売上は昨年並みを確保
- ・ 客数昨比減で消費低迷を実感する声も強まっているが、1人当たりの買上げ点数は落ちているものの、値上げなどで客単価が上昇し結果的に売上を確保している構造は先月と同じである
- ・ 消費者はチラシへの反応が敏感になり特売品や安価なものは買い求めるが、ついで買いをするケースが減っており、不要不急なものは買わない心理が顕著に現れている
- ・ 中国製品に端を発した食の安全に対する疑念は、相次ぐ商品回収で更に強まった感がある

商品動向

農産

- ・ 野菜については、相場安が続き売上確保に苦戦している環境に変わらない。好材料は気温が高めに推移したことから、月間を通してキュウリ・トマトなどのサラダ野菜が、動きの鈍い鍋物商材をフォローする格好になった。月後半からは主力のはくさいや土物、菌茸類など季節商材も動き始めた
- ・ 果物については、バナナが依然としてダイエット需要により好調を維持。去年の倍の売上を記録する企業も続出したが、混乱は定まり落ち着きを見せ始めた
- ・ 国産果実は豊作で安値をつけたりんご、柿が好調に推移した

水産

- ・ 輸入品の相場高、生魚の不漁で苦戦から脱却できない状態が続く中、生かきの品質不安定による出荷遅れはマイナス材料
- ・ 生さんま、生秋鮭は入荷、売れ行き共に好調を継続。平年のように値崩れすることなく高値安定したことも売上に奏功した
- ・ まぐろ、うなぎ、魚卵は相場高騰と品質不安定により苦戦を強いられ、鍋物関連も相場高に気温の高さが加わり、厳しい動向に終わる

畜産

- ・ 牛肉全体は他の畜種に比べ、引き続き高単価を敬遠される傾向にある。気温が高い影響もあり、すき焼き・しゃぶしゃぶ用のロース・肩ロースうす切りなど上級部位は不調だったが、低単価の切り落とし肉は好調
- ・ 輸入牛に対して割高な国産牛の動きが良くなった
- ・ 豚肉と鶏肉は節約志向を背景に、部位や用途に関わらず高い需要が続く
- ・ 加工肉全体も好調ではあったが、メーカーの商品回収が相次ぎ、ハム、ウインナー品群は伸びが鈍化

惣菜

- ・ 米飯では季節商材を使用したおこわ、弁当、丼物が伸張
- ・ フライドは全般的に好調でカキフライ、さんま竜田揚げ、コロッケがけん引役になる
- ・ 原材料高騰による値上げアイテムは低調に推移

日配・加工食品

- ・ 麺類は値上げ後も堅調に推移。同じく価格を上げた牛乳は加工乳、低脂肪乳に消費が流れ不振が目立った
- ・ 漬物は野菜相場安に見舞われ、冷凍食品も異物混入事故が絶えず共に低迷
- ・ 嗜好性が強いデザート類、ヨーグルトは苦戦が続いた
- ・ 新米の動きが良いおかげで、加工食品でものり・ふりかけなどが好調で、ご飯の関連商品は極めて好調
- ・ 内食需要の高まりで、醤油、砂糖、味噌中心に基礎調味料の動きが良かった
- ・ 後半は気温が下がり鍋つゆ（鍋の素）、乾物、コーヒー豆、ココアが売れた
- ・ 米菓は事故米転売問題の影響か、売れ行きにバラツキが出たが、菓子類全般は各品群とも好調であった

その他

～行楽マーケットの動向について～

- ・ 行楽関連商材は惣菜の弁当、好調なふりかけ、のり、から揚げ粉などの弁当商材以外に目立つ動向は見られず、マーケット需要が落ちている。弁当商材も秋の運動会需要と重なり概して行楽ニーズとは位置づけられない
- ・ 酒類は、ビール、発泡酒が低調で新ジャンル（第三のビール）が伸びた

～ボジョレー・ヌーヴォーの予約状況について～

- ・ 予約状況は、昨比80%～120%と企業により分かれる。中心価格帯は 1,950円～2,980円で、取り扱いアイテム数は、各社3～5SKUが大半で、多い企業で10SKUを展開
- ・ 早期予約者にはワイングラス、ソムリエナイフを配る企業、通常売価の100円引き・100円相当のポイント進呈などを行う企業があり、予約特典は一般的に導入されている
- ・ 高単価品の動向を不安視し、ハーフサイズなど価格を抑えた商品を新たに取り入れた企業も多いが、年々のブーム落ち込みと景気先行き不安も重なってか、全体の予約状況は今ひとつという実感が支配している

以上